

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立中原特別支援学校 鳥栖田代分校
-----	---------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に対する理解をさらに深め、効果的な授業及び支援のあり方を探求し、特別支援教育に関する専門性の向上を図り、個の課題に迫った授業及び指導の充実を図る。 ○評価規準及び評価基準を意識した授業実践の展開を図るとともに、ICT活用を推進し、さらなる授業の工夫・改善に努める。 ○適切な進路情報の提供と児童生徒の実態に応じた指導を行うとともに、児童生徒の将来の自立と社会参加を目指し、保護者との連携を図りつつ指導・支援にあたる。 ○担当業務の適正化(業務量の抜本的見直し)と働き方に関する意識改革の推進を図る。
------------------	--

2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかに豊かな心を持ち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。
----------	--

3 本年度の重点目標	①専門性の更なる向上・専門性を生かした授業づくり ②東部地区における特別支援教育のセンター的機能 ③ICT活用の推進 ④個に応じた進路指導 ⑤安全・安心な学校づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	●「個別の指導計画」を適切に活用し、個に応じた指導・支援の充実を図る。 ○お子さまが適切な指導・支援を受けることができた回答した保護者を75%以上とする。 ○適切に個別の指導計画を活用することができた回答した教員を80%以上とする。	●個別の指導計画を作成マニュアルや研修資料を活用し、作成の意義、手続きを職員に周知する。 ●年3回個別の指導計画に基づく検討会をもち、複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行う。 ●本人又は保護者と面談や日々の情報交換等の対話を通して、PDCAサイクルを活用し目標、手立て、変更について共有する。	B	●作成した個別の指導計画に基づき、保護者の意見も踏まえて、担当職員間で繰り返し話し合いながら指導・支援を行っている。 ●お子さまが適切な指導・支援を受けることができた回答した保護者が75%以上であった。 ●適切に個別の指導計画を活用することができた回答した教員が80%以上であった。	A	●保護者や関係者の意見も踏まえ、担当職員で指導計画の改善を図りながら、支援を行ってきた。 ●お子さまが適切な指導・支援を受けることができた回答した保護者が75%以上であった。 ●適切に個別の指導計画を活用することができた回答した教員が80%以上であった。	A	●保護者、教職員共に適切な指導ができているとの回答があり、十分に達成できている。 ●数値目標を達成しており、個に応じた指導・支援が充実していると思われる。 ●個別の指導計画だけでなく、先生達が日々個別に話を聞き、日によって様子の違う子ども達に合わせて指導をさせていただいているのが分りやすい。	教務部
	○新学習指導要領の実施に向けた取り組み及び教員研修の充実	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを行う。 ○職員の専門性向上を図るための職員研修を年1回以上実施する。	○本校における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方を基に、学習グループで演習に取り組み、報告会を年1回行う。 ○知的障害に関する職員研修、公開研修等を実施する。	●研究部と教務部を中心に、学習指導要領に沿った効果的な評価の仕方を全職員で研究している。 ●職員が校内外の研修に参加する機会をほぼ確保できている。	B	●研究部と教務部を中心に、学習指導要領に沿った効果的な評価の仕方を全職員で研究している。 ●職員が校内外の研修に参加する機会をほぼ確保できている。	A	●研究部と教務部を中心に、学習指導要領に沿った効果的な評価の仕方を全職員で研究し、職員間で同じ方向性を共有することができた。 ●研修の成果を、支援計画や指導計画の改善に生かすことができている。	A	●職員の研究及び研修により成果が出ていると思われる。中間評価を踏まえての教職員の皆さんの力がうかがえた。 ●子ども達にとって、自分で考え、自分の言葉で伝えることはなかなか難しいこともあると思う。学校生活の中で、その経験を重ねることができているようである。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳教育において、「豊かな心」を育む教育の趣旨に基づいて授業や行事等を展開していると回答した教員を70%以上とする。	●人権・同和教育に関する校内研修会を実施する。 ●保護者や地域の方と連携した校外学習や交流行事を実施する。	B	●7月に、人権・同和教育に関する校内研修会を実施した。また、校外学習や保護者参加行事も予定通り実施できている。	B	●必要な校内研修会を実施した。また、校外学習や学校行事もほぼ予定通り実施することができ、児童生徒の学びの幅を広げることができた。	B	●コロナ禍での学校行事の実施は大変だとは思いますが、ほぼ予定通り実施できたということで、子ども達も嬉しかっただろうと思う。 ●数値目標を達成しており、道徳教育ができていると思われる。	生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員を70%以上とする。	●職員間での積極的な情報交換や毎月のいじめ認知・認知件数調査を実施する。 ●年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の連絡帳を活用する。	B	●7月のアンケート調査で1件のいじめを認知、認知し、組織的な対応を行った。 ●いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	A	●7月におきた1件のいじめについて、組織的な対応を行い、解消に至った。 ●いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	A	●今後はいじめを起こさせない取組を期待する。 ●いじめに関しては、当事者や関係者のみで知り得ることだろうと思う。解消とあるが、解決したかどうかの判断は被害者しかできないと思うので「解消」には違和感を感じる。ただ、素早い対応に本人や家族は救われたのではないだろうか。	生活指導部
●健康・体づくり	○児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童生徒の将来の自立に向けて、組織的に効果的な教育活動ができていると回答した保護者及び教員を70%以上とする。	●児童生徒の希望する進学先・職業について、保護者が考える機会を設ける。 ●児童生徒の将来の自立を意識した指導を行う。	B	●児童生徒の将来の自立に向けて、組織的に効果的な教育活動ができていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	B	●児童生徒の将来の自立に向けて、組織的に効果的な教育活動ができていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	B	●将来については、本人も保護者も具体的なイメージを持つことが難しいと思う。日々先生達から目指していることやできるようになったことを連絡帳等で伝えてもらうだけでも子ども達の成長を感じられている。	全職員
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に食事は大切であるとする児童生徒を60%以上とする。 ○食事の大切さやマナー等の指導を行った教員を70%以上とする。	●野菜を育てる活動や日々の給食等を通して、食育に関する指導を行う。 ●給食の時間や授業を通して、食に関する指導を行う。 ●食物アレルギーについての研修を行う。	B	●子どもが、食事の大切さについて学んでいると回答した保護者が60%以上であった。 ●給食の時間を中心に、食事の大切さやマナー等の指導を全職員で行っている。	B	●子どもが、食事の大切さについて学んでいると回答した保護者が60%以上であった。 ●職員が、移転工事に伴う配膳場所の変更などの対応に追われ、食育指導を十分に行うことができなかった。	B	●工事等の対応により一部の指導が十分に行われなかったことは残念だが、次年度の改善に期待する。 ●備食の子も多しと思う。食育は本当に大変だと思ふ。コロナ禍で中々難しいとは思いますが、自分が作ったものを他者に「美味しい」と食べてもらえる喜びを子ども達が知る機会があると良い。	保健体育部
●地域支援	○安全な学校環境の整備と健康教育の充実	○安全・安心な学校生活が送れていると回答した児童生徒及び保護者を70%以上とする。 ○学校で感染症予防が十分になされていると回答した保護者を70%以上とする。	●事故やケガが起きないように安全点検を行う。 ●全職員で感染症対策に取り組む。 ●国や県から示される感染症の予防法や対応策を必要に応じて保護者に周知する。	B	●安全・安心な学校生活が送れていると回答した児童生徒及び保護者が70%以上であった。 ●学校で感染症予防が十分になされていると回答した保護者が70%以上であった。 ●校内での新型コロナウイルスの感染拡大は防ぐことができている。	A	●安全・安心な学校生活が送れていると回答した児童生徒及び保護者が70%以上であった。 ●学校で感染症予防が十分になされていると回答した保護者が70%以上であった。 ●年間を通して新型コロナウイルス感染症対策を行った。	A	●感染対策に関して、十分な理解が難しい子ども達もいる中で、感染拡大がおきていないのはすごいと思う。 ●毎朝、校庭を元気にマラソンしている子ども達を見て、一生懸命に頑張っている姿に、そして、一緒に走っている先生達にエールを送ります。	保健体育部
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●各分掌部が、地域支援業務を意識しながら実施に取り組んでいると回答した教員を70%以上とする。	●地域支援業務に関連する各分掌部における取組を5月に「地域支援組織表」としてまとめ、全職員に配布する。 ●各分掌部会や職員会議等で周知に努め、年に2回評価を行う。	B	●教育支援部を中心に、センター的機能の充実に取り組んでいる。鳥栖市主催の相談会をとおして、保護者や児童生徒等への支援を行っている。 ●地域支援業務を意識しながら取り組んでいると回答した教員が70%以上であった。	B	●地域支援業務を意識して実務に取り組んでいると回答した教員が70%以上であった。 ●教育支援部を中心に、センター的機能の充実に取り組んだ。巡回相談については、人的余裕がなく、分校では実施できていない。	B	●巡回相談を希望している保護者は多数いると思うので、実施できる体制になっていただけると有難い。 ●業務多忙だとは思いますが、巡回相談ができる体制への改善を期待する。	教育支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○交流及び共同学習の推進	○学校間、居住地校交流、地域間交流では、事前打ち合わせを確実にし、内容の充実と推進が図られていると回答した教員を70%以上とする。	●年に数回地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。 ●昨年度までの記録やチェック表を活用し、効果的な打ち合わせを行う。	B	●10月以降の居住地校交流の実施に向けて、予定どおりに準備を進めることができている。	B	●居住地校交流やなにかし交流を予定どおり実施することができた。 ●参加を希望しなかった保護者に対しても、情報提供を積極的に行っていく必要がある。	B	●感染症が流行している中での他校との交流は大変だったと思う。希望する子どもが安全に楽しく交流できるよう、来年度以降も調整をお願いします。 ●保護者の参加を促す工夫や積極的な情報提供を期待する。	学習部 総務・広報部
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○ICTの活用推進により、業務の効率化を図る。	●毎週金曜日を定時退勤推進日とする。 ●年6日の完全定時退勤日を設定する。 ●時間外勤務の多い職員に対し、業務内容の改善と効率化について指導する。	D	●金曜日の定時退勤ができている状況が続いている。更なる業務の効率化が必要である。	C	●昨年度と比較して、時間外勤務の時間数は横ばいで、改善が見られなかった。 ●年に6回の完全定時退勤日を実施し、職員の意識改革を図った。	C	●時間外勤務を減らすために、時間内の業務や会議、委員会等の見直しが必要と思われる。 ●年に6日しか完全定時退勤日がないのは驚きだが、それだけ先生達の仕事が大変なのだと思ふ。	管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○快適な職場環境の構築	○職員は連携を取りながら協力して業務に取り組んでいると回答した教員を70%以上とする。	●日頃からコミュニケーションがとりやすい職場環境を整える。	B	●職員は連携を取りながら協力して業務に取り組んでいると回答した教員が70%以上であった。	B	●職員は連携を取りながら協力して業務に取り組んでいると回答した教員が70%以上であった。	B	●大変な仕事だからこそ、職員間の協力は不可欠だと思ふ。来年度は、教職員の働き方改革に注力してもらいたい。 ●職員間の連携や協力、思いやりで更なる職場環境の改善に取り組んでほしい。	分校管理職
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	●重点取組	●成果指標(数値目標)	●具体的取組	●進捗度(評価)	●進捗状況と見通し	●達成度(評価)	●実施結果	●評価	●意見や提言
○本校や施設、企業との連絡調整	○個別のニーズに合わせた、進路情報の提供と進路研修の充実 ○福祉サービス事業所等と連携、働く生活が実感できる現場実習や職場体験学習の推進	○年間2回の職場見学を実施する。 ○中3年の現場実習を実施する。 ○児童生徒の自立に向けた進路指導が行われていると回答した保護者及び教員を70%以上とする。	●関係施設、企業や本校舎進路指導部と連携を図り、進学や将来の就労に向けて児童生徒や保護者に情報を提供する。 ●本人や家族の希望を考慮しながら、体験学習や就労体験の場を設定する。	B	●進路指導部を中心に、職場見学を予定通り実施している。現場実習についても準備を進めている。 ●児童生徒の自立に向けた進路指導が行われていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	A	●進路指導部を中心に、職場見学と現場実習を予定通り実施した。 ●児童生徒の自立に向けた進路指導が行われていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	A	●十分な取組が行われていると思う。 ●将来をイメージするために、実際に見て、体験することは本当に大切だと思う。コロナ禍の中、無事に見学や体験が実施されて良かった。	進路指導部
	○設置者が異なる学校(田代小学校)との協働	○インクルーシブ教育の充実	○年間2回の合同職員研修を実施する。 ○月2回の小学校との情報交換会で、必要に応じて特別支援教育について発信する。	●分校の教室を公開し、使用教材・教具等の紹介を通して特別支援教育に関する知識・理解を深める機会を設ける。 ●お互いのニーズを知り、特別支援教育に関する情報交換をする。	B	●7月に分校の教室を公開し、使用教材・教具等の紹介を通して特別支援教育に関する知識・理解を深める機会を設けた。 ●田代小学校と定期的に情報交換の機会を設けている。	A	●田代小学校の児童とお互いに思いやりを持って学校生活を送る環境が実現できている。 ●田代小学校と定期的に情報交換を行い、校内の課題を協力して解決することができた。	A	●田代小学校の子ども達にも、人を思いやる心が自然と育まれていると感じている。 ●職員間での情報交換はできているのだと思う。問題は出てくると思うが、もっと子ども達同士のかかわりができると良いと思う。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度末まで校舎の大規模改修工事等が続くことから、工事の進捗状況に応じて、安全・安心な学習環境の確保に引き続き努めていく。また、教室の引越しなどの業務増大を見据え、早めの対応で時間外業務の削減に努める。 ●学習指導要領を踏まえた効果的な授業及び支援のあり方の研究を継続し、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、一人ひとりの児童生徒に応じた授業及び指導の充実を図る。 ●教職員の研修の機会を確保し、評価規準及び評価基準を意識した授業の改善を図る。特に、主体的に学ぶ意欲を高める授業展開の工夫やICT活用の推進を行う。 ●令和8年度の新特別支援学校開設に向けて、特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 									